

男子エペ団体



古俣(新潟西区出身)が貢献

フェンシング2大会連続メダル



【パリ】渡辺伸也本誌記者「パリ五輪第8日の2日(日本時間3日未明)、フェンシングの男子エペ団体で日本が銀メダルに輝いた。2021年の東京五輪に続く連覇はならなかったが、2大会連続の表彰台。初出場でリザーブの古俣聖選手(26)＝本間組・新潟市西区出身＝も貢献し、今大会で県勢初のメダリストとなった。

日本は古俣選手のほか、エペ個人金メダルの加納虹輝選手(26)＝JAL＝、見延和靖選手(37)＝ネクサス

PARIS
2024
パリ五輪

＝、山田優選手(30)＝山一商事＝の布陣で臨んだ。準々決勝でベネズエラを39－33、準決勝でチェコを45－37で破った日本は、決勝でハンガリーに延長戦の末、25－26で敗れた。古俣選手はベネズエラ戦から途中出場し、堅実な戦いぶりでポイントを重ねた。決勝では第3、5、7試合に登場し、チームに勢いを与えたが、及ばなかった。

古俣選手は新潟第一高、中大を経て、本間組に所属。5歳で競技を始め、小学生時代から国際大会で経験を積んできた。

男子エペ団体で銀メダルを獲得した古俣聖(右)ら日本チーム＝2日、パリ(時事)